

正しく知って、結核予防

「結核は過去の病気だから大丈夫」そう思っていないませんか。

明治時代から昭和20年代までの長い間、「国民病」「亡国病」と恐れられた結核。50年前までは年間死亡者数も10数万人におよび、死亡原因の第1位でした。

現在では、医療や生活水準の向上により、薬を飲めば完治できるようになりましたが、過去の病気と想っていたら大間違いです。1年間に、約2万5千人が結核にかかり、2千人以上が命を落としている、重大な感染症です。

結核は、主に肺に炎症を起こす病気です。重症の結核患者の咳などで結核菌が飛び散り、周りの人がそれを直接吸い込むことで感染します。

ただし、結核にかかったからといって、必ず発病するわけではありません。通常は、免疫力の働

きで結核菌の増殖を抑え込むため、発病はしません。ほかの病気や疲れなどで免疫力が低下し、結核菌の増殖を抑えきれなくなると結核を発病するのです。

では、結核にかかるなどのような症状が出るのでしょうか。結核の初期症状は、あまりはっきりしたものはありません。咳が長引く、微熱や倦怠感(体がだるく、活力が出ない)が続く、たんが出る(たんに血が混ざると、風邪に似た症状が長く続きます)。

これらの症状が2週間以上続くときは、結核かもしれないので、早めに病院に行きましょう。

早期発見は、本人の重症化を防ぐだけでなく、大切な家族や職場などへの感染拡大を防ぐためにも重要です。

結核の発病者は、高齢者と若者に多く見られます。



赤ちゃんの結核感染を予防するため、生後6カ月までに、必ずBCG接種を受けてください(写真は町の3、4カ月児健康診査)

す。現在の高齢者は、若いころに結核の流行を経験しているため、すでに結核に感染している人が数多くいます。体力や抵抗力が低下したときに、眠っていた菌が目覚まし、発病するというわけです。

反対に、若者は未感染のため、菌を吸い込むと

感染しやすく、比較的早い時期に発病する危険があります。

65歳以上の人は、年に1回、必ず結核検診(胸部レントゲン検診)を受けてください。これは、『感染症予防法』という法律で義務付けられています。まだ結核検診を受

結核は、早期発見・早期治療ができれば、治る病気です。それほど怖がる必要はありません。結核について正しく知り、自分や家族の健康を守りましょう。

**保健福祉課
健康づくり業務**
☎(62)2115



家の中では、ジャングルジムなどで元気に遊ぶ心太郎くん。ポーズもしっかり決まりました。

「元気に育って、やりたいことを一生懸命にできる子に育ってほしい。もし音楽をやるなら、いろいろな楽器を演奏してほしいです」とはママの夕佳さん。

阿部心太郎くん

平成20年6月生まれ
～樋ノ口
正史さん・夕佳さん夫婦の長男

8月に開催された、樋ノ口集落のお祭り。アトラクションとして実施されたバンド演奏の会場で、パパの歌とギターを聞き、手を振り上げて喜んでくれたのが、心太郎くんです。バンド活動が縁で知り合った、音楽好きの正史さんと夕佳さん。その影響が、心太郎くんも音楽が大好き。「首を振りながら、強弱をつけてピアノを演奏しています。わたしたちより上手かもしれない」ママの夕佳さんは目を細めます。

なんでもパクパク食べて、元気いっぱい心の心太郎くん。最近、歩き始めたので、公園に行つて虫を捕まえたり、草をむしつたりして遊んでいます。朝起きると、大好きなおばあちゃんのとこに、あいさつをしに行くのが日課です。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出て下さい。
☎(62)2111

サークル紹介

Circle introduction

観客席が真っ暗な、学びの大きなホール。明るさが際立つステージの上で、音楽に合わせて、正確なステップを踏んでいるのが、フレンドリーの皆さんです。

「ダンスが好きで初心者が集まり、仲間づくりをしながら、楽しく練習をする。そんな目的で活動しています」と深谷一夫代表は話します。

「よちよち歩きで、始まったばかりのサークルですが、ラテンダンスやモダンダンスに挑戦しています。皆さん楽しく練習していますよ」講師の猪俣利栄先生が、やさしいまなざしを向けた先では、会員の皆さんが笑顔で踊っていました。

※このコーナーでは、活動をPRしたい団体を募集します。毎月一団体ずつ紹介していきますので、希望する団体は総務課秘書広報業務まで問い合わせください。
☎(62)2111

フレンドリー (深谷一夫代表)



(写真左)フレンドリーの代表を務める深谷一夫さん
(写真右)ピシッとポーズを決めた・・・つもりの皆さん

